

フットサルシーズンを迎えるにあたって

～フットサル競技規則の改正について～

網走地区サッカー協会審判委員会

委員長 千田 晋

フットサル部長 永野間雅博

「15歳以下のフットサル協議会における競技規則の適用について」2010年3月29日

第11条 ファウルと不正行為

(財)日本サッカー協会の決定

日本サッカー協会などが行う15歳以下のフットサル協議会においては、次の規則を適用する。

ゴールキーパーが手で投げた後、または足でけた後、ボールが競技者に触れるかプレーさせる、あるいはピッチ面に触れる前にハーフウェーラインを越えたときは、相手側チームに間接フリーキックを与える。

間接フリーキックは、ハーフウェーライン上の任意の地点から行われる。

※このルールにより、ゴールキーパーのけたボールはたとえ一度ピッチ面につけたボール（ドロップキック等）でもハーフウェーラインを越えることは出来なくなりました。こぼれ球をゴールキーパーがクリアしたり、パワープレーをしたりなどのプレーがしづらくなり、戦術上難しくなる部分はあるのですが、それ以上にゴールキーパーからのキックのやり取りだけでフットサルではないプレーが多かったことや技術向上の為の改正だと思えます。また、ゴールクリアランスに関わっても文言が改正されましたが、表現のみの改正で内容の変更はありません。

「フットサル競技規則の改正」2010年8月10日

第1条ーピッチ

※表現のみの改正で内容に変更はありません

第2条ーボール

※ボールの欠陥について、壁なしのフリーキック、第2ペナルティーマークからのキックの場合についての規定がなかったため追加されました。

第3条ー競技者の数

※今までは試合開始時の最少人数が5人でしたが、試合開始後の最少人数との整合性で3人となりました。

※最大交代人数は7人でしたが、国際試合では10名まで増やすことができるようになりました。

第4条ー競技者の用具

※自由な交代を用いずに、負傷の治療や用具の交換等のためにピッチから離れた競技者の復帰の方法について、サッカーと同様（アウトオブプレー中、またはインプレー中の場合は第3審判の管理の下のみピッチに戻ることができる）としました。

第5条ー審判員

※サッカーと同様に負傷等で任務が遂行できなくなった場合の為に予備の審判員を置くことができるようになりました。

第6条—副審

※第3審判、タイムキーパーの任務や遂行方法が細かく明記されました。

- ・タイムアウトを要求するときは、そのための用紙を第3審判にわたします。タイムアウトの要求が無かった場合、第3審判はハーフタイム及び試合後に用紙を回収します。
- ・退場を命じられた競技者に代わる交代要員の入場時間を第3審判は専用の用紙に記入し、チーム役員に渡します。

第7条—試合時間

※試合終了のブザーがなったとしても、主審や第2審判が最後のキックの行方を見極め、得点かどうかを判断できるようになりました。

- ①直接ゴールに入った→得点
- ②ボールが直接境界線を越えた→終了
- ③ボールがゴールキーパー、ゴールポスト、クロスバーに触れた後、
 - ・ゴールに入った→得点
 - ・境界線を越えた→終了
- ④守備側ゴールキーパーがボールを止めた→終了
- ⑤ゴールポスト、クロスバーから跳ね返り、ゴールラインを越えなかった→終了
- ⑥壁なしのFK、PKとなる反則が犯された→壁なしのFK、PK
- ⑦ゴールキーパー以外の競技者が触れた→終了

第10条—得点の方法

※自由に交代できることで規定の人数より多くの競技者が入ってプレーする可能性が高いことから、競技規則に違反があったときの対応が明記されました。

第11条—オフサイド

※サッカーと同様に条項を設けましたが、フットサルではオフサイドでは罰せられません。

第12条—ファウルと不正行為

※直接フリーキックに値する反則については、まったくサッカーと同じになり、スライディングタックルも“不用意に、無謀に、または過剰な力を用いて”行わない限り、認められることになりました。

ただし、無謀さ等については、フットサルが床の上で、かつ限られたプレーイングエリア内でプレーされることを十分に考慮しなければなりません。

※間接フリーキックに値する反則のうち、ゴールキーパーがボールを一旦リリースした後に再び触れる場合について、「ボールがハーフウェーラインを越える」という条件がなくなったため、相手競技者に触れない限り自分自身のハーフ内では触れることができなくなりました。これにより、パワープレーでも、ゴールキーパーが相手ハーフにいない限りパス交換ができなくなります。

※カードで懲戒の罰則を示せない場合の対応が明記されました。

第13条—フリーキック 第14条—ペナルティーキック

※フリーキックの際の相手競技者が規定の距離内に侵入した場合や、累積ファウルの記録について明確に規定されました。

※壁なしのフリーキックや、ペナルティーキックでのキック後のボールの不具合や、特定されていないキッカーがキックを行った場合について規定されました。

第16条—ゴールクリアランス

※インプレー中と同じように、相手競技者が触れない限りゴールキーパーが再びボールに触れることが出来なくなりました。

ペナルティーマークからのキック

※両チームの人数が異なる場合の進め方について規定されました。例えば人数の多いチームのゴールキーパーはキックを行わず、ゴールキーパーとして守備に専念して参加することが可能となりました。

また、除外されたゴールキーパーはいつでもピッチ上に残ったゴールキーパーと交代して参加できるようにになりました。

ガイドライン

※退場を命じられるファウルに対してのアドバンテージの適用で得点となった場合や、インターバル中の競技者の退場があった場合のチームの競技者数について明記されました。

※審判員の装身具について明記されました。

※ペナルティーキックのフェイントについてサッカー同様に明記されました。

フットサル競技規則改正以外の変更点

第1条—ピッチ

●大きさ

幅：最小 ~~15m~~→16m

国際試合

幅：最小 ~~18m~~→20m

●第2ペナルティーマークからのフリーキックが行われるとき、最小限マークから離れる距離を示すために、第2ペナルティーマークの左右、それぞれ5mのところのところに2つの追加マークを付けなければならない。このマークの幅は、~~6cm~~→8cm である。

第2条—ボール

●空気圧は、海面の高さの気圧で、~~0.4~0.6 (400~600g/cm²)~~→0.6~0.9 (600~900g/cm²)

第8条—プレーの開始および再開

●キックオフからは、直接得点することが ~~できる~~→できない。

第13条—フリーキック

●4秒ルールの追加→第2PK、壁なしのフリーキック

第15条—キックイン

●ボールをける競技者は、

- ・いずれかの足の一部をタッチライン上、またはタッチライン外のピッチ面につけ、
- ・ボールがピッチから出た地点、またはピッチ外で、その地点から25cm以内の場所から、必ず静止したボールをける。

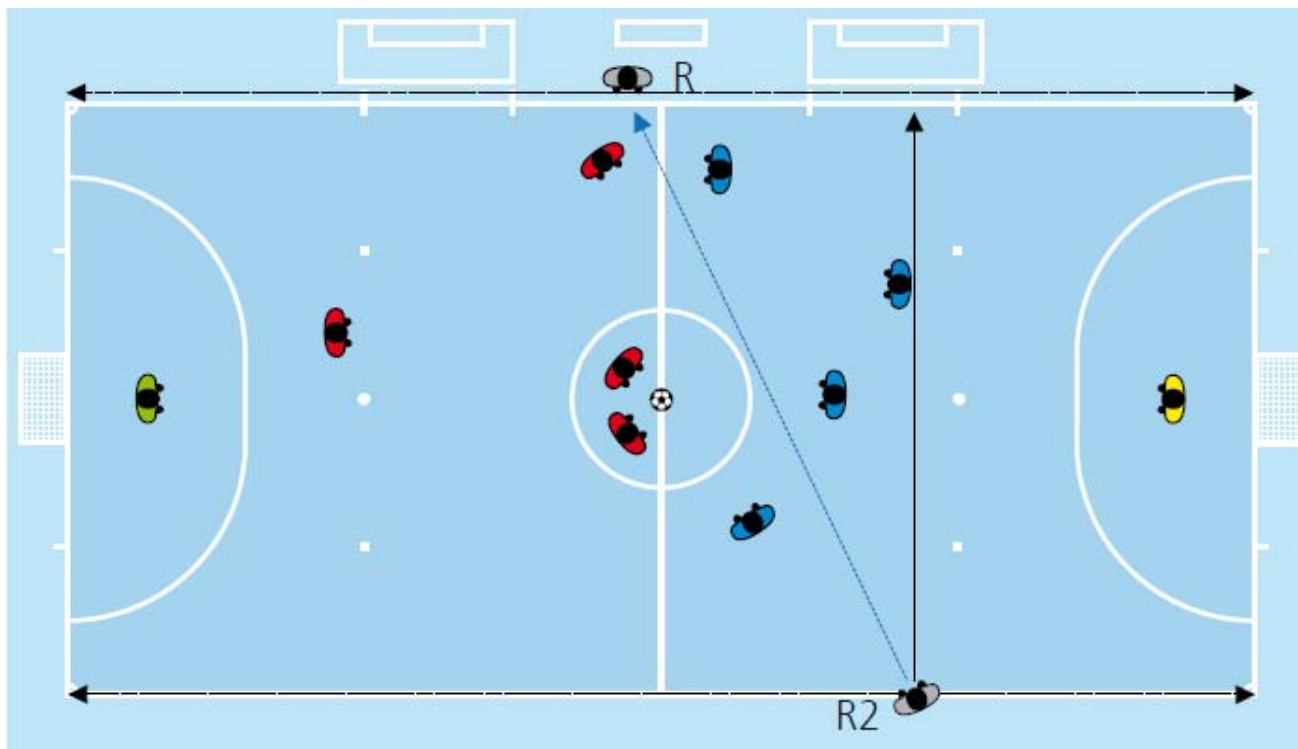
第17条—コーナーキック

●コーナーキックが4秒以内に行われなかった場合、~~間接フリーキック~~→ゴールクリアランス が相

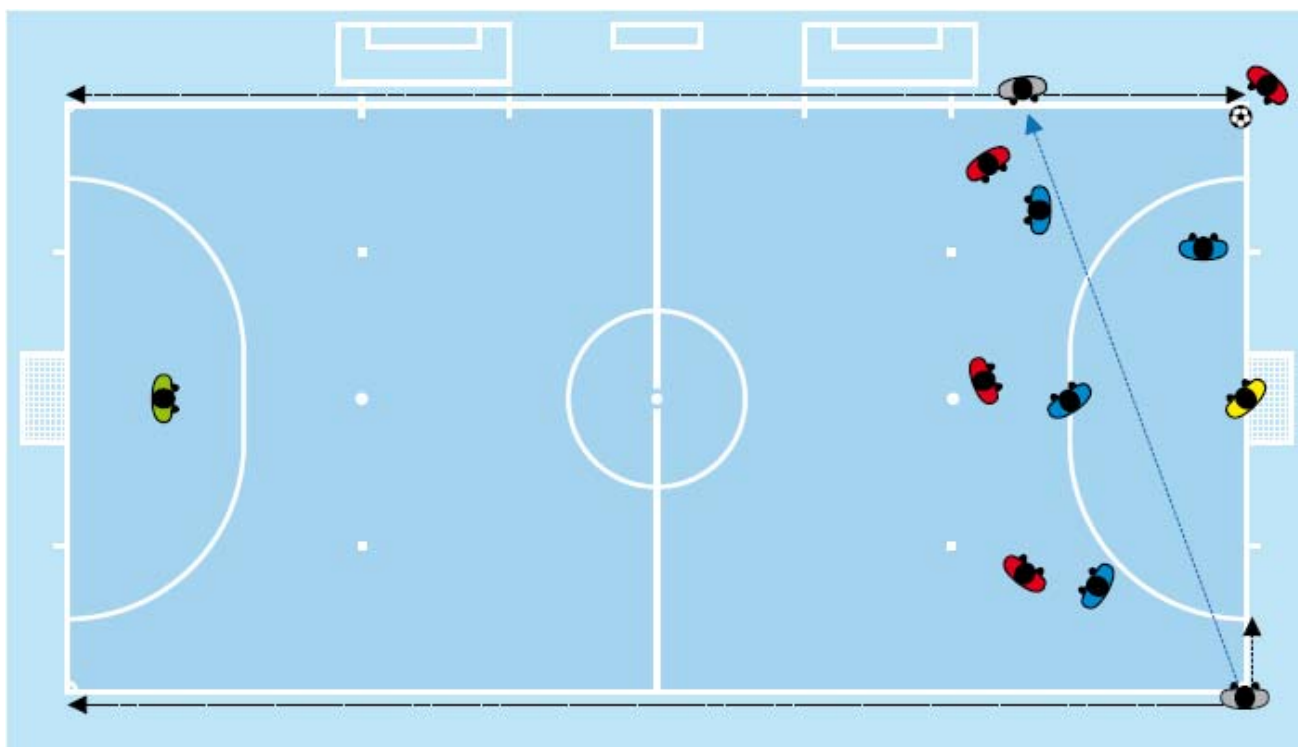
手チームに与えられる。

ガイドライン

●キックオフ時のポジション→主審がオフィシャル側、第2 審判はその反対側（今までの逆）。その後は試合の状況に応じて自由に交代できる。



●コーナーキックのポジション→キッカー側の審判はボールの後方、反対側の審判はゴールライン上に位置する。



- オウンゴールのシグナル→両手・片手で背番号を表示後、どちらか一方の手を水平に指す。

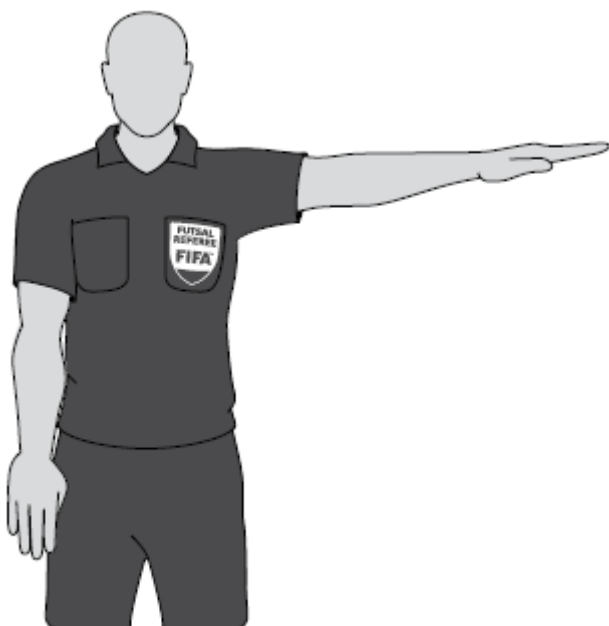


Own goal (1)



Own goal (2)

- フリーキックのシグナル→水平に指す
- キックインのシグナル→斜め上に指す
- ゴールクリアランス、コーナーキックのシグナル→斜め下に指す



Direct free kick/penalty kick



Kick-in (1)



Corner kick (1)



Goal clearance (1)